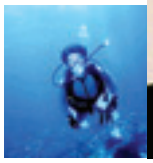
あきらめない、楽しむ、前向きな姿勢が道を拓（ひら）く



大阪大学大学院歯学研究科
高次脳口腔機能学講座
顎口腔機能治療学教室 教授
阪井 丘芳 さかい たかよし

徳大の歯学部を卒業後、大阪大学の歯学部、その後、大阪警察病院に口腔外科医として就職しましたが、再び大阪大学から声をかけられ研究の道へ。昼間は大学病院で診療しながら、夜と週末は研究に取り組むという日々でした。最初、口の領域のガンの転移を抑える研究をしていましたが、指導教官が九州大学へ移動してしまいます。そこでガンの研究手法を用いて神経の軸索誘導の研究（共に分子生物学）をすることとなり、この論文で博士号を取得しました。

この頃、徳大を卒業したときに読んで感動した論文を書いたアメリカ国立衛生研究所の先生が来日。ぜひ雇ってほしいと申し出て断られましたが、審査を受けるチャンスは与えられ、論文や履歴書を提出しました、が再び断られました。しかしひとつだけ面白い論文があるからと、再度書き直して出すこととなり、やっと認められます。

ここで喜んだのもつかの間。相手の出してきた条件は、「雇ってもいいけど給料はない、自分で奨学金などを受けて費用を工面すること。足りない差額ぐらいは出してあげてもいい」というとんでもないものでした。「せこいなあ（笑）」と思いましたが、なんとしてもアメリカに行く決意で、20ぐらいの奨学金制度をあたり、なんとか2件、200万ぐらいを確保。いよいよアメリカへ。

ところが向こうに行ってみると、給料はもちろん、自分のデスクやパソコンまで用意されていたのです。アメリカの先生（ここからボスと呼びます）は、どこまで本気か、また熱意があるかを試したのです。

「私は何でもあきらめずに根気強くやるほう。大変な仕事でも楽しんでやろうと決めています」

という阪井先生の前向きな姿勢が道を拓いたのです。

しかし試練は始まったばかりでした。アメリカ政府の設立した研究室なので待遇はいいのですが、まずぶつかったのは英語でした。会話はもちろん、研究費を取るための書類作りにも苦労しました。書類がちゃんとできずに本を投げつけられるほどボスを怒らせてしまったことも。このボスをそれほど怒らせたのは阪井先生が初めてだったそうです。その結果、メインのプロジェクトから外され、「勝手に好きなことをしなさい」とまで言い渡されてしまいます。そして「好きなことをやってもいいかわりに、他の研究生の前で毎週、研究計画を発表すること」を義務づけられました。

「毎週プレゼンをするのですが、毎回さんざんけなされましたね。これを2ヶ月ぐらい続けました」

その頃、ストレス解消のために剣道（徳大時代は剣道部に所属）をやっていて、アキレス腱を切ってしまいます。

「このときは半年ぐらい惨めな思いをして気持ちも焦りましたが、周りの人たちが親切で、良くサポートしてくれました。リハビリをしていたら、みんなが話しかけてくれます。おかげで英会話も上達しました」

変毒為薬（毒を転じて薬とする）という言葉がありますが、ここでも阪井先生のポジティブな姿勢が、マイナスをプラスへと変えています。

先生が一人で取り組んでいたのは、「唾液腺」の研究でした。何度も繰り返し発表して1年ぐらいたった頃、やっとまわりが注目をしはじめ、ボスの対応も変わってきました。それまで顕微鏡も古いのを使わされていましたが、研究費を2000万円まで認めてくれ、最新の顕微鏡を買うこともできました。

2年間の研究で成果を出し帰国しようとしたら、ボスは政府の公式レターで日本の教授に、もう1年残ってほしいと要請してくれたほどです

また有名な科学誌の「ネイチャー」にも論文を出すようにすすめてくれました。この論文は落とされてしまいますが、内容的に「ネイチャー」にむくようにやり直せば審査してもよいとコメントの入った落とし方で、3度目の挑戦で掲載されました。アメリカ、日本の大手の雑誌・新聞が先生を取材して紹介しました。これをきっかけに、阪井先生の仕事に講演が増えました。また、大阪大学歯学部では、41才で二番年下の教授に抜擢されています。

「どこに行っても、どんなときでも、何かやることを見つけて楽しむことを考えます。がむしゃらに進むうちにこのようになり自分でも驚いています。」

徳大に入ったときには開業医を目指していましたが、剣道部の顧問の「研究が医療を進める」という言葉が、臨床と研究の道を歩むきっかけになりました。さらに、ヨーロッパに一人旅をして、ドイツの病院を訪ねたことから口腔外科を歩むきっかけになりました。

「学生時代は勉強もクラブ活動もアルバイトも、何でもチャレンジして、大切な時間を有効に使ってください。あきらめないことと感謝することが大事、いろんな人との出会いも大切に」

と、阪井先生からのメッセージです。

略歴

1964年 大阪市生まれ
1991年 徳島大学歯学部歯学科 卒業
1994年 大阪警察病院 歯科・口腔外科 医員
1996年 大阪大学歯学部附属病院 第一口腔外科 医員
2000年 米国国立衛生研究所 客員博士研究員
2004年 大阪大学歯学部附属病院 口腔外科（制御系）講師
2006年 大阪大学大学院歯学研究科 高次脳口腔機能学講座 顎口腔機能治療学教室 教授